

★マリガヤハウス便り★

★河野 尚子★



日本の皆様、こんにちは！いかがお過ごしですか。こちらフィリピンは暑い日が続いていますが、朝夕に雨が降り始め、少し過ごしやすくなってきたような気がします。6月に入ると本格的に雨期となりますが、昨年の台風オンドイ被害が未だ解決されていない地域もあり、災害の再発が心配されます。

さて、子ども達は6月から新学年が始まります。今年は6月15日が全国始業日となっています。あと残り2週間ほどの夏休みですが、新学期に心を弾ませ、休みを満喫しています。

【マリガヤインターンのつぶやき パート2】

こんにちは。マリガヤハウスでインターンとしてお世話になっている木村智子です。大学では社会学を学んでおり、3回生を終えた後からこちらに来了います。インターンシップでは、日本に提出する法的資料の翻訳、クライアントへのインタビュー、大使館への書類提出の同伴、電話対応や書類整理など、様々な業務を経験させていただいています。ここでは、マリガヤハウスを通して出会った方々とのやりとりから感じたことを4つ書きたいと思います。

【国籍は人権】

こちらに来了すぐのころ、河野さんからお話いただいたこんな言葉がとても印象に残っています。「JFCは特別な存在ではない。ただ、人権という部分が満たされていないから、それが満たされるためのお手伝いをマリガヤハウスがしている。」 すとん、と頭に入ってきて、なるほど、と感じたことばです。国籍は人権だったのか、と。

JFCのお母さんとお父さんが出会った経緯、JFCが生まれた経緯は個人的なものです。フィリピンの出稼ぎの状況、日本がフィリピン人のエンターテイナーを受け入れたことなどは社会的な背景であり、両者は密接につながっていることを考えると複雑な気持ちになります。誰かひとり、何かひとつだけを責めることはできません。国籍という人権を満たす手助けを重ね、また事例を積みあげて法律の改正等の大きな動きにもつなげていこうとするJFCネットワークの動きに関わることができて嬉しく思います。

一方でクライアントにとって国籍取得とはどのようなことなのだろうと思うこともあります。彼らにとっては、国籍はなにかをするための手段であるのかな、と感じることもあります。

「お父さんに会いに行きたいから」

「日本で働きたいから」

「子どもが国籍をとれば、母親も合法的に日本に行きやすいから」

様々な理由がありますが、手に入れた権利をどう用いるのか、とても考えさせられます。



【血統主義】

国籍取得のために様々な書類を大使館へ提出しますが、非嫡出子（子の両親が結婚していない）の場合、父親の写真と子どもの写真が似ていると、強い資料になるそうです。

「日本は血統主義」 ケースを扱っている中でこんな言葉を耳にし、どことなく頭にひっかかっています。確かに、血のつながった家族には不思議なきずなや縁を感じます。一方で、里親や同性愛カップルによる家族、シェアハウスで暮らすなど、血縁にこだわらない家族観もでてきていると思います。2009年に施行された新しい国籍法からは、非嫡出子も国籍を取ることができるようになりました。依然、血縁は家族における大切な要素となっていますが、今後どのように家族観が変わっていくのか、とても興味深く感じています。

【めずらしくない国際児】

先日、コピーノとよばれる、フィリピン人と韓国人の間に生まれた子どもたちの教育支援をしている団体を訪れました。JFCに限らず、フィリピンにたくさん国際児や外国人がいることは、JFCに影響しているのではないかと感じました。日本に比べ、フィリピンでは外国人や国際児が珍しくなく、異質さに敏感でない環境が生まれているのではないかな、と思ったためです。コピーノ団体の代表の方は、フィリピンでは混血がよくあってコピーノに対する差別はないけれど、韓国では差別がある、とおっしゃっていました。



訪問したコピーノ支援団体にて。教育面の支援に力をいれていて、モンテッソーリ教育を取り入れているそうです。

私が住んでいるフィリピン人家族に、JFCに対して差別があると思うかどうか、と尋ねてみた際は、「(差別は) ないよ、だってそもそもその子が JFC かどうか、見分けがつかないもの。顔を見ても、中国人と思うかもしれないし、韓国人かな?と思うかもしれないし。」とおっしゃっていました。一方で、JFCが差別とたたかう物語を描いたマンガを読んだこともあります。差別の状況をどうとらえるかという視点もさまざまなのだと思います。日本にいる JFC も、フィリピンにいる JFPC も、自身のアイデンティティを肯定的にとらえられればと強く願います。

【幸せなとき?】

Kailang ka masaya?

(どんな時幸せを感じますか?)と時々JFC母親にたずねました。「家族がよい状態にいるとき」「子どもを生んだとき」「娘と一緒にいるとき」...多くの方にとって「家族」がキーワードのようです。マリガヤ

Kailang ka masaya?

の質問に、

「フィリピンに帰って家族

と一緒にいるときはいつ

も幸せ」

と答えてくださいました。



ハウスではお父さんへの手紙を預かって東京から届けたり、お父さんからの送金を管理したりもしていますが、お父さんがフィリピンにいる家族に関心を注いでいるのだと表現することは本当に大切なことなのだと痛感します。

一方で、「お金がないからしあわせじゃない」と答えられることもあります。「経済的豊かさが幸せなんじゃない。貧しい人々も笑顔で、彼らには彼らの幸せがある」というようなメッセージを日本でよく見かけますが、生きていくためにお金が必要なのは事実で、「お金がなくても幸せ」を過度に押し出すことにも疑問を感じます。同じJFCでもクライアントによって状況は多様でそれぞれが複雑ですが、微力ながら彼らの幸せが増すように、また自分自身もここで出会う幸せに敏感でいたいな、と思いながら活動しています。ありがとうございます。

(文責：木村智子)

マリガヤハウスの主な活動

3月

- 新規クライアント受理前にオリエンテーションを開催。
- 新規クライアント登録会議を開催。
- クライアントへの家庭訪問を実施。
- JFCネットワーク奨学生・ソロプチミスト奨学生・在日フィリピン大使館奨学生合同会議、日本語教室、異文化交流会を開催。
- 認知後の国籍申請のため在比日本大使館を訪問。
- ローカスから依頼されたDNA鑑定実施。
- フィリピン・ジャパンパートナーシップネットワーク (PJP) 会議参加。
- 国籍喪失訴訟第1原告グループとマリガヤハウス母子原告グループとの交流会を実施。
- 生活支援施設コスモスの訪問受け入れ。
- IOM (国際移住機関) JFC支援プロジェクトの一環として来比していた伊藤塾の視察受け入れ。

4月

- JFCネットワーク奨学生・ソロプチミスト奨学生・在日フィリピン大使館奨学生合同会議、日本語教室、異文化交流会を開催。
- 大阪大学アイセックインターン生木村智子さんを受け入れ。
- フィリピン・ジャパンパートナーシップネットワーク (PJP) 会議参加。
- 認知後の国籍申請のため在比日本大使館を訪問。
- ローカスから依頼されたDNA鑑定実施。

5月

- 新規クライアント受理前にオリエンテーションを開催。
- クライアントへの家庭訪問を実施。
- JFCネットワーク奨学生・ソロプチミスト奨学生・在日フィリピン大使館奨学生合同会議と日本語教室を開催。
- 認知後の国籍申請のため在比日本大使館を訪問。



パ グ ア サ

PAG-ASA

JFC 奨学金基金報告

パグアサー夢・希望
2010年06月号

マリガヤハウスでは、世界各国の大学生で構成されている特別非営利活動法人アイセックのフィリピン・ラサール大学支部と提携し、日本アイセックや日本以外からのアイセックからインターンを受け入れています。マリガヤハウスの通常業務は事務作業でなかなかJFC母子との交流を深める機会がありません。こうやってインターン生が来て母子交流のための機会を作ってくれるのは、オフィスと母子との関係を良好に保つにも必要なことだと感じています。

2010年1月から4月初めにかけて、慶応大学、京都大学、中央大学などで法律や教育を専門に勉強している大学生や、アメリカの大学院を卒業し日本社会に出る前の人などが、マリガヤハウスでインターンをしてくれました。インターンの皆さんは、自らが持つ知識を十分に生かして、JFCの子ども達へ日本の言語、文化、習慣をたくさん教えてくれました。また、それを学ぶ子ども達も、日本から来た日本人との交流を楽しみ、自分の父親の国についてとても興味深く学びました。



今回のパグアサでは、3月に行われたワークショップについてご報告します。

2010年3月7日（日）に、奨学生会議にあわせて日本人インターン生4人で授業を行いました。この授業には、奨学金をもらっているJFCが11名参加しました。授業内容は、日本語教室、日本文化紹介、法律入門、ドイツの紹介、栄養バランスのとりかたです。

当日になってタイムラインの変更がありスムーズに運営できたとはいえませんが、アンケートの結果、参加者からの満足度3.5ポイント(満点5.0)を得ることができました。目標としていた数値と照らしてみても妥当だと思います。

日本語教室では、事前にリリアン国政先生との打ち合わせを行い、前回の授業のフィードバックを含めて日本人インターン生を活用した授業を提案しました。実際に、文法だけでなくゲームや会話を組み合わせて授業をしてもらいました。

次に、日本文化紹介として書道について学びました。日本語への興味を深めるた





めに、実際に子どもたちに体験してもらいました。

法律入門では、子どもたちにも分かるように法律がどういうものなのか、マリガヤハウスが行っている"法的支援"はどのようなものなのか、を教えました。

また、ゲストでドイツ人のベルトさんがドイツという国についてプレゼンしてくれました。滅多に無い機会に、子どもたちもお母さんたちも興味津々で聞いていました。

その後、栄養バランスのとりかたについてプレゼンしました。日ごろの自分たちの食事不足しているものや、とりすぎているものを分析し、理想のバランスについて考えました。子どもたちは時折、質問をしながら真剣に聞いてくれました。

2010年3月21日に「What's your DREAM?」というテーマでワークショップを行いました。奨学生だけではなく他のJFCの子どもたちも参加してくれたので、新しい友達づくりの良い機会にもなったと思います。

最初の自己紹介では、最初に隣の人と自己紹介をした後その人をみんなに紹介する形式にしました。そうすることで、より積極的にコミュニケーションをとることができました。その後、自己分析として自分の長所・短所を紙に書き出し共有しました。

ワークショップでは「自分にとって夢とはなんなのか」「夢と目標はどう違うのか」を話し合いました。子どもたちから出てきた意見として「夢は自分を方向付けてくれるもの」「夢は人生を豊かにしてくれるもの」「夢がなければ退屈してしまう」「夢がなければ進歩はない」ということができました。そして夢と目標の違いについては「目標は夢へのステップ」「夢よりも身近で明確なもの」「より実現可能性が必要」という意見がありました。恥ずかしがってなかなか意見を言わない子もいましたが、積極的に語ってくれる子もいて、おもしろい議論ができたと思います。また、ソーシャルワーカーのカルメンが自分のライフストーリーを紹介してくれ、子どもたちは真剣に聞いていました。



最後に、自分の夢はなにか画用紙に自由に書きました。医者や看護婦、ビジネスマン、モデルなどいろいろな夢を聞かせてくれました。

今回のイベントをきっかけに、夢を描くだけでなく、そのプロセスまで描いてくれば良いと思います。

(文責：河野尚子、芳崎優美)